



[千年の都を育む水・土・緑]

歴 2-22 (R03)

岡崎神宮道の西側、白川沿いに建つ竹中庵は、琵琶湖疏水からひいた水路のある水車跡地を大正5年（1916）に竹中亀吉が購入し、改修、石積みして製粉（精麦）を行っていた農家型住宅です。

明治から第二次世界大戦頃まで、岡崎界限には水車が数多くありましたが、昭和15年、国の食糧管理令の強化等により多くの工場は閉じられ、それらの水路は暗渠となりました。現在、当時の水路が残るのは竹中庵のみで、前の小路は「水車の竹中みち」と名付けられ、地域の人々の散歩コースとしても親しまれています。

敷地には、大正期に建てられたと推測される主屋と、水車を設けていた旧工場棟（現 時忘舎^{じぼうしゃ}）があります。

主屋は、木造葺瓦葺き2階建てで、1階平面は4間あり、下手側2間を土間とし、その奥のダイドコロは、元々吹き抜けでしたが、現在は床と天井が付いています。白川沿いの通りからセットバックして建ち、水車操業当時、前の空地では、疎水を舟で運ばれた玄米や、精麦した製品等の荷捌きなどを行っていました。

水路上に建つ旧工場棟は、かつては内部で水車を操業していましたが、昭和45年頃に通り側が解体され、現在も残る奥の棟が当時の面影を伝えています。



旧工場棟（水車小屋）



白川からの眺め



〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町56-1

電話番号 075-751-5678

アクセス 市バス「東山三条」徒歩4分

※個人宅のため、通常非公開です。